

マイクロCOモニターの測定値に関して

非喫煙者なのに測定値が10ppm以上の場合、下記のことをご確認ください。

- _ 息を強く吐きすぎているか。(息は細く長く吐き出して下さい)
- _ サンプルコネクタ内部に水滴がたまっていないか
- _ 本体やサンプルコネクタをアルコールで消毒していないか
- _ 測定場所の近辺にアルコールが置いてないか
- _ 本体後ろに貼られている‘校正済’ラベルの日付が1年過ぎてないか
- _ 患者さんが飲酒して、そのアルコールが影響してないか
- _ 患者さんが受動喫煙の環境にいないか
- _ 患者さんが一酸化炭素の多い環境で生活もしくはお仕事してないか(例えば、車の通りが多い工事現場など)
- _ 患者者に気管支喘息、炎症性肺疾患、糖尿病などの疑いはないか

※連続に測定していると、サンプルコネクタ及び内部のセンサーが湿りやすくなります。
測定後はサンプルコネクタをはずし、外気に触れさせよく乾燥させて下さい。

※非喫煙者・肺疾患における呼気CO濃度上昇が報告されています。

喫煙者なのに測定値が10ppm以下の場合、下記のことをご確認ください。

- _ 本体後ろに貼られている‘校正済’ラベルの日付が1年過ぎてないか
- _ 呼気が弱すぎないか
- _ きちんと息を吐き出していたか
- _ 息止め時間は十分なのか(20秒間を推奨します)
- _ 喫煙後、4~5時間経っていないか(呼気CO濃度の半減期は短く、4~5時間です)
- _ 測定時間が早朝ではないか(測定時間は午前よりも午後の方が安定した値を得られやすいと言われます。睡眠中COが半減されている可能性があります。)
- _ 何回か、再測定していないか(測定を繰り返す事で、肺の中のCO濃度はどんどん減っていきます。)

信頼性ある測定値を得るためには、1年に1度マイクロCOモニターの定期キャリブレーションを行うことを強くお勧め致します。

サンプルコネクタは250回のご使用を目途に交換することをお勧め致します。

マイクロCOモニターのセンサーの寿命は2~5年です。